会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和2年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」（２）教職員の資質能力向上の推進①効果的な教育成果②教職員研修プログラムの構築 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第1回ICT活用研修WG |
| 開催日時 | 令和2年10月1日（木）　15時00分～17時00分 |
| 場所 | オンライン会議 |
| 出席者 | 事業責任者：高岡　信吾 委　　　員：猪俣　昇、岡村　慎一、岩切　直子、岩﨑　千鶴、合田　美子長瀬　あゆみ、中田　明子　　　　　　　　　　 計 8名請負業者：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　　　 計 1名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 合計 9名 |
| 議題等 | 1. リーダーあいさつ（猪俣）
2. 委員紹介（各委員）
3. 事業概要の共有（岡村）

・専修学校教員の質保証・向上を進めるための研修プログラム2つを開発する。・本WGではアクティブラーニングの視点を持ち、ICTを活用し先導的・効果的な教授法を修得・実践するための研修プログラムを開発する。・これまでも3年間実施していたが、今回のテーマとしては、多様な学習者のニーズや能力に合致した教育をデジタルやネットワーク（ICT）を活用して実行できる教員を育成するための研修プログラムとしている。・インストラクションデザインの活用も考慮しながら進めていきたい。4. ICT活用WGの活動内容共有（猪俣）・年度ごとの活動　＜今年度＞　○各種教育機関が取り組んでいるアダプティブラーニングに関する実態調査に関する説明■アンケート調査時期：令和2年10月、年度内に集計を予定。①教員の役割(学生伴走型の指導の実現)と②「伴走するための手段のひとつ」としてのICT、の2軸でアンケートを進める。■ヒアリング調査時期：令和2年11月以降。アンケート調査対象校の中からヒアリング調査対象をピックアップ。　＜令和3年度＞○調査結果をもとに、デジタルコンテンツを活用したアダプティブラーニング教授法の開発　＜令和4年度＞○デジタルコンテンツを活用したアダプティブラーニング教授法を修得するための研修プログラムの開発研修プログラムの内容・カリキュラム・シラバス・事前学習用elearning・集合研修用テキスト・事後学習用教材および評価シート・指導マニュアル5. アンケート項目について説明・回答者が答えやすいように選択式にしており、全部で10問。・個々の目標設定、達成するためのノウハウに視点を置いている。・責任者向けでは、アンケート回答者(教員)の成果について質問。責任者から、部下(教員)にアンケートを依頼する流れで、回答者の人数は任意とする。アンケート後のヒアリング調査に繋げたい。・自身の取り組みに関してのレベルの認識に関する項目の追加検討。・学生個々人の学力や能力、個性を育成するための指導の中で、学生の理解度・動機・スキル・学習方法・行動などの面で、学生のニーズを汲んでいるかどうかが調査できる項目の追加。・ICTの活用されている場面に、記録だけではなく、分析やファシリテーションに関する項目の追加。・設問8の記録する内容について表現を検討。・10月9日(金)までに各委員より意見収集、10月19日(月)の週から2週間アンケート実施。・アンケート依頼先のリスト作成。6. ヒアリング調査について・調査対象校（候補含む）　全専研加盟校、デジタルハリウッド、山野美容短期大学、京都精華大学　42、Ｎ高校、クラーク高校、神戸電子、俊英館、チアリーなど・ヒアリング調査方法は基本的にオンラインを予定し、状況によって訪問を検討する。・ヒアリング日程が決まり次第、担当を決定する。・承諾いただいている対象校、委員在籍校は、可能であればアンケートと並行して進める。・期間は11月～1月頃をめどとする。32分7. スケジュール確認・第2回ICT活用研修WG…10月27日(火) 15時30分～17時30分場所：麻生塾　※対面とオンライン併用で実施。8. 事務局から・移動の際はGoToキャンペーンの使用は禁止。 |
| 配布資料 | ・事業計画書・20201001開発委員会ICT活用WG資料・20201001\_アンケート素案・概念図 |

以上